

崎定 長検

一級 さん

Vol.7

「面白くてどうもすいません」 白井 淳さん

合格率四・八％……。長崎歴史文化観光
検定の最難関を突破した一級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一家言
ありそうです。
ざくばらんに寄稿願いました。

「長崎におつたら歴史ば勉強せんば住んどる意味のなかぞ」学生のころ長崎在住の叔父に言われた言葉です。佐世保生まれで歴史の成績は超低空飛行のまま学生時代を過ごした私は、高校を卒業すると県外に出てそのまま関東方面の会社に就職しました。しかし都会の水が合わなかつたのでしよう、十年前にUターンをしてみました。

さて、戻つてくると「長崎は歴史と観光のまぢでもあるらしいし、案内くらいできないとまぢないな」ということと、頭の片隅に残っていた前述の叔父の言葉から手始めに勤務先の近くにあつた出島の事から調べ物をしたり、現地をうろろろとしていました。また、お旅所も近くにあり『くんち』での人々のパワーに圧倒され取り込まれていきました。

長崎の事を学ぶ上で一番の基礎になつたのが長崎阿蘭陀年(平成十二年)から開始された市立博物館主催(現在は長崎歴史文化博物館で継続)の「長崎学公開講座」でした。これは毎月一度、座学と現地研修が交互に行なわれるもので、市内の身近な所に様々な歴史が眠っている事を知る事ができました。また講座で頂いたレジュメをむさぼるように読み

返していた事を思い出します。「大事な事はこの講座で学んだ」と言って過言では無いでしょう。

また、この講座は『ながさき県民大学』の対象講座でもあり、おかげで県民大学の方も昨年五〇〇単位まで取得し、学長賞を頂くことができました。まさに一粒で二度おいしい講座なわけです。その後も純心大学や長崎大学等で開催される市民向け公開講座を積極的に受講し、長崎の歴史の奥の深さ、多彩さに驚くと共に興味がますますわいてくるのがわかりました。長崎を楽しむこと…検定合格の秘訣かも知れません。

長崎検定とさるく博によって、より多くの方が長崎の歴史を学び始めた事は、長崎にとつて意義のある大きな出来事と思えます。底辺がひろがることにより層の厚みは増し、より深い研究が行なわれたり、子供たちの中から多くの研究者が誕生するのではないでしょう。か。とても楽しみにしています。

来年はNHKで「龍馬伝」が放送されるとの事。今まであまり歴史に興味がなかつた方も、さるくのガイドマップ等を手に現地を訪れてはいかがでしょう。「龍馬伝」の面白さが倍

増する事は間違いないと思えます。あれこれ考えるよりはまずは行動です。「観光地産地消」一緒に楽しみましょう。

伝統文化等を次世代に引き継ぐ事は、現在の私たちの使命だと考えています。その事から現在はいくつかの市民グループにも参加し、微力ながらお手伝いをさせて頂いています。

「面白くてどうもすいません」…これだけ様々で特異な歴史と文化の有るまちに住んで身近に楽しめる事は他の地方の人に対し申し訳ない…長崎の歴史や文化に触れるたび思うっています。

今後長崎を楽しむながら、文化の継承や情報の発信等、長崎のために尽くしたいと考えています。



【プロフィール】
長崎県土地開発公社勤務
昭和32年生
高校までを佐世保市で過ごす。
平成11年東京からUターン、直後から長崎の歴史、文化の面白さに取り付かれ現在に至る。